『線形代数概説』正誤表

（内田伏一・浦川　肇 共著，裳華房 刊）

（2012/2/3 現在）

第 9 版（2007 年 2 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行･見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
198	左段 5	［サラスの方法の英訳］　Sarras	Sarrus

第 6 版（2004 年 9 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
65	例題 7.2	設問の行列の第 2 行の成分をすべて　1　にする．	
		設問の変更に伴い，解答における余因子を定める行列式の成分と，余因子の値の一部などが替わります．α_{11}，α_{12}，α_{13} は第 1 行が「 1　1 」に；α_{31}，α_{32}，α_{33} は第 2 行が「 1　1 」になり，値が順に「1，2，−3」になります．この値が逆行列の第 3 列になります．	

第 3 版（2002 年 3 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
49	例題 5.2	行列式中の指数の n を $n-1$ にする．　［12 箇所］	
～		〃　$n-1$ を $n-2$ にする．　［12 箇所］	
50			

第 2 版（2001 年 4 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行･見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
73	下から 11～8	$\mathbf{K}^n$ の部分空間…［中略］…と書く． ↓　［文章の変更］ $\mathbf{K}^n$ の部分空間 W のベクトルの組 $\{\boldsymbol{v}_1, \boldsymbol{v}_2, \cdots, \boldsymbol{v}_r\}$ が W を**生成する**とは $W = S[\boldsymbol{v}_1, \boldsymbol{v}_2, \cdots, \boldsymbol{v}_r]$ のときをいい，さらに 1 次独立ならば $\{\boldsymbol{v}_1, \boldsymbol{v}_2, \cdots, \boldsymbol{v}_r\}$ を W の**基底**と呼び，W の**次元**は r（$=\dim W$）であるという．	
189	3.1（1）	［行列の（3,2）成分］　−20	−18
198	左段下から 6	「生成する」の項目にページ 73 を加える．	